

研究テーマ アジア大陸の地質学的進化過程の総合的研究

所属 都市デザイン学部

教授 大藤 茂

https://researchmap.jp/Shigeru_Otoh

研究分野	地質学全般
キーワード	地史学,構造地質学,プレートテクトニクス,ジルコン年代学,古生物地理学,比較層序学

研究室URL :

研究の背景および目的

地史学、構造地質学、およびテクトニクスを専門としています。アジア大陸形成に至るプレート運動史を、①各地の岩相層序の比較、②古生物地理、③古地磁気データ、④砂岩中の碎屑性ジルコン年代分布を用いた後背地解析、⑤剪断帯の形成年代・センスの調査等を通じて復元しようと考えています。歩みが遅いですが、独自のデータから下記のような復元モデルを提示しています。



■ 主な研究内容

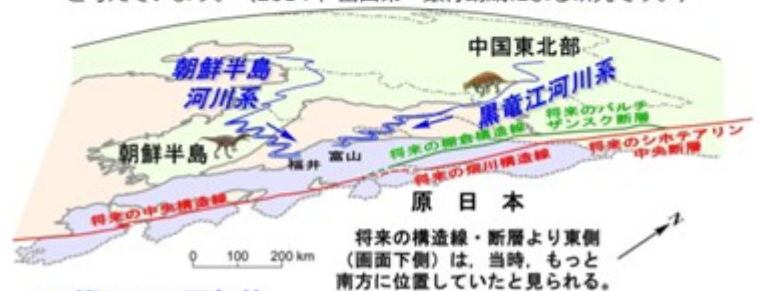
※4,000万年前 (日本海形成前)

現在の日本列島を構成する地質の大部分は、アジア大陸東縁に位置しており、ロシア沿海地方～ハバロフスク地方につながっていたと考えています。



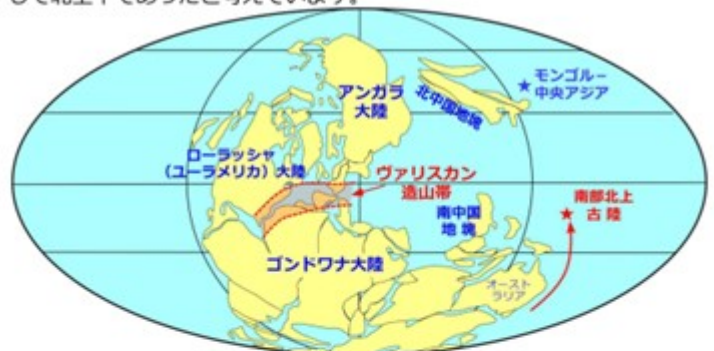
※1億2,000万年前 (富山に恐竜がいた頃)

富山の恐竜は中国東北部から、福井の恐竜は朝鮮半島からやって来たと考えています。(2014年 富山第一銀行助成による研究です。)



※3億3,000万年前

日本列島の一部(南部北上古陸)は、南半球の Gondwana 大陸から分裂して北上中であつたと考えています。



期待される効果・応用分野

プレート運動史の復元は、過去から現在に至る地球内部、地表環境、地下資源形成、及び陸生～浅海生生物界の進化を理解する助けとなります。

■ 共同研究・特許など

- ※二国間交流事業(ロシア科学アカデミー極東支部): シホテアリン-サハリン地域、ジュラ～白亜紀弧-海溝系地質体の形成・進化史の解明
- ※韓国ソウル国立大学校、慶尚国立大学校: 韓国の湖南剪断帯の形成史とその意義の解明